

◆◆編集後記◆◆

活版の会誌発行は京浜歴史研創立時よりの懸案でしたが、毎年発行する資金上の用途が立たず、会誌発行そのものを一時は断念してしました。しかし、内田修道氏のイニシアチブと献身的な尽力（ワープロ原稿の作成）により、本誌を一九八七年一月に創刊することができました。その内容は好評でしたが、何分にも体裁がよくありません。なんとか活版化できないかとの声があがっていた折、横浜大気堂さんが破格の条件で印刷を引き受けてくださるとのお話があり、ついに第二号を活版化することに踏みきった次第です。

本誌の編集は、事務局での検討をふまえてなされています。年報としての本誌はその年の会活動の成果を誌面に反映するものでなければなりません。そこで、まず第一の柱は、毎年の年頭に催される総会の記念行事の記録になります。本号では公開討論会「神奈川県地域史研究の現状と課題」の記録がそれにあたります。また、それ以外の企画・行事の記録が第二の柱をなします。本号には、公開講座「神奈川の歴史を学ぶ」の記録とともに、創刊号に収載できなかった連続講座「歴史に学ぶ」の記録もおさめました。さらに、第三の柱としては毎月の研究例会や勉強会での学習・研究の成果がありますが、これは性質上、会員の個人論稿の形をとることになります。本号には四本を収載しました。これらの多くは、毎月の会報にのったものを、一部加筆訂正をほどこして再録したのですが、会報が会員の方以外の目にはふれないことを考えて会誌が出されているという事情から、ご了解いただけるものと存じます。

さて、右のような方針で編集をすすめてみると、さてこれから一年間、第三号を出せるだけの、中身のある活動ができるか、ふと心配になります。これを杞憂にするためにも、本号が多くの方々の目にとまり、大いにご叱正願わねばなりません。（文責・奥田晴樹）

京浜歴史研年報 第二号

発行日 一九八八年一月三一日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒233 横浜市港南区港南台二一―九一四〇七  
奥田晴樹方 TEL 〇四五―八三二―五二七七

(郵便振替口座 横浜七一―五五三五)

印刷 合資会社 横浜大気堂

横浜市中央区真砂町四―四〇